

厚生省精神・神経疾患研究委託費 11 指-8
摂食障害の治療状況、予後などに関する調査研究
菊池郡市の高校での摂食障害の状況 2

○原井宏明 山口日出彦 荒木祐子 池上研 下原宣彦 弟子丸元紀

国立療養所菊池病院

1. 前年度の研究

1) 研究の運営

99年9月から学校との協力体制をつくった。

11月に養護教諭との研究会を行った。

11月20日に高木先生をお招きして学校教員、医療関係者を対象に摂食障害講演会を行い、熊本県での関心の向上を図った。

12月に生徒調査を行った。

1月からデータ入力を業者に委託して行った。自由記述項目の入力を含み、1枚のデータシートあたり132円程度で行っていただくことができた。委託費用50万円は別の研究費から捻出した。

要望として、遠方からの参加者にとって東京での会議は時間的には負担にならないが、金銭的負担は大きい。交通費について配慮を頂きたい。

2) 調査結果

3476人の回答があった。

(1) うつ DSRSC

16点以上がうつ病とされる(村田)。16点以上であったものは1326人(男508, 女779, 不明39)であった。

(2) 強迫症状

強迫症状が現在あると答え、その内容について記載をしたのは、636人だった。手洗い、確認、自分の行動が人に対して嫌な思いをさせたのではないか心配になる、などの記載があった。

(3) 摂食障害

EAT-26について有効な回答は3451名だった。そのうち摂食障害が疑われるEAT-26が20点以上なのは187名(5%)、男女別では男性29名(2%)、女性154名(9%)だった。平均点は全体が6.01点、男性3.92点、女性7.90点、標準偏差はそれぞれ7.27、5.08、8.36だった。

(4) 物質使用

現在週に3回以上使う物質としては、タバコは451人、酒は122人、シンナー3人、ライターガス8人、覚醒剤4人、咳止め剤17人、その他9人(痛み止めなど)であった。

酒について週に1回以上使用しているものは739人であった。

過去に使用経験があるものは、シンナー76、ライターガス70人、覚醒剤19人、であった。

2. 今年度の研究計画

6月28日に養護教諭との研究会を行い、昨年度の結果について報告した。

11月25日土曜日に野添先生をお招きして昨年度と同様な講演会を開催する予定にしている。

9月頃に予定して2回目の調査を計画している。前回の調査で見ると、脱落率が低いので用紙を改変せずそのまま使う予定にしている。

昨年度の調査のうち1883人が高校1,2年生、かつイニシャル・生年月日が記入されており、彼らについては追跡調査が可能である。

データ入力については昨年度と同じ業者に依頼する予定にしている。